

文豪「生写朝顔語」

泣けて、クスリと笑えて、
また泣ける。
すれ違いにドラマの決定版！
すれ違いはドラマを生む。そして、これはすれ違いドラマの決定版だ。出会いのトキメキから、別れ、再会、また別れ…と運命の糸は交わりそうでなかなか交わらない。そんなじれつたくもハラハラドキドキさせてくれる「生写朝顔語」とは、一体どんな物語なのか。

お家騒動も面白けれど、
大衆が好きなのは、
やっぱり悲恋モノ。

そもそもは司馬芝斐の長話『舞（あさがお）』を歌舞伎化し、それをさらに淨瑠璃にしたものが、しかし、興行的には、ワキ筋にあつた男女の悲恋のほうが面白い時代、愛しい人がどこにいるのかわからぬ状態でニアミスの連続 자체、奇跡に近い。二人をつなぐのは、ズバリ！ 彼が朝顔の歌をしたためた扇。物語の要風を送るのである。

ハラハラの展開。
それにしても、なぜ、こんなにもすれ違う？ 一つは、養子に入ったり、芸名を名乗るなど、途中、主役一人の名前が変わる。それで互いに気がつかぬまま、ということ起こる。もう一つは、すれ違いモノが決まりの絶妙なタイミングでの下下つたり、よからぬ者を伴つていたり。風が吹いたら、川が増水になつてしまつ。

それでも変わらない
力半は、朝顔の扇。
二人の想い。
力半は、朝顔の扇。

出会ってはすれ違うのは、W主演のこの二人！

【宮城阿曾次郎】(みやぎあそじろう)後に駒沢次郎(こまさわじろううざえもん)
大内家の武士。後に伯父の養子となり、改名。これもまた、すれ違いの理由の一つ。

【深雪】(みゆき)後に朝顔(あさがお)
家老秋月弓之助の娘。流浪の果てに盲目となり、朝顔を名乗る。

【浅香】(あさか)深雪の乳母。深雪を守り、深手を負つて亡くなる。
【浅香右衛門】(あさかうゑもん)浅松へ笑い聲を手にする島田富の主人、実は浅香の父。

【岩の祐仙】(いわのすけ)深雪に傳説をしたヤフ医者。笑い聲の段ではご注目！
【代多喜太】(いわしあたきだ)家中の者ながら、大内家裏つ取りを企む一人。

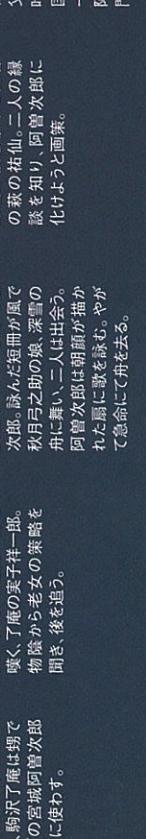
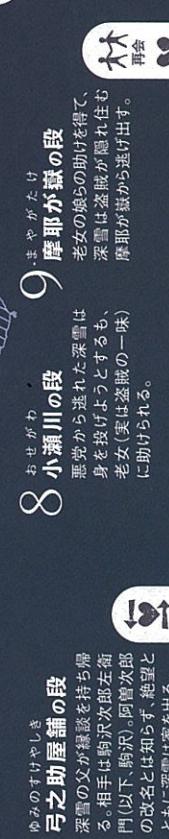
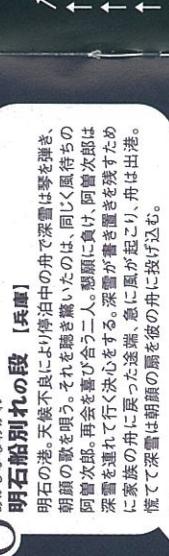
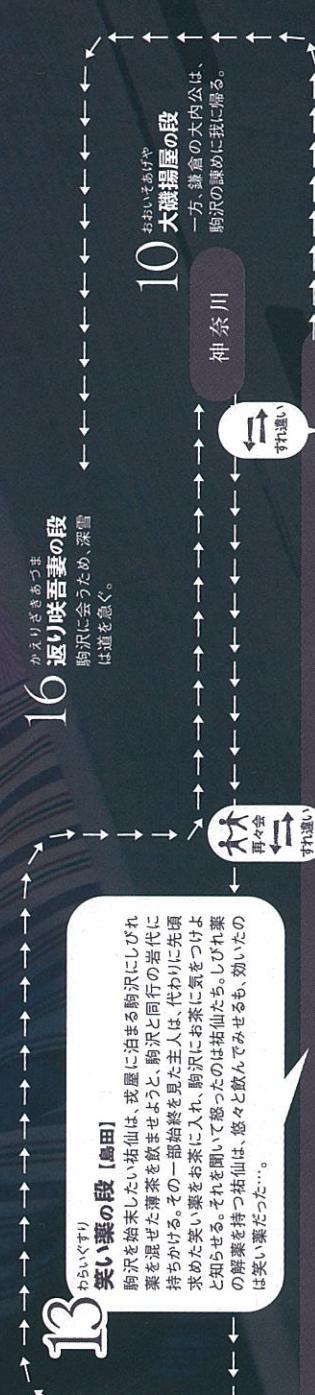


地図の上から、
二人の運命を追つてみよう！

写真/青木信二

舞台のクリエイマックスは、浜松から島田、そして大井川へ…。

地図でたどる



舞台のクリエイマックスは、浜松から島田、そして大井川へ…。

舞台のクリエイマックスは、浜松から島田、そして大井川へ…。

舞台のクリエイマックスは、浜松から島田、そして大井川へ…。

舞台のクリエイマックスは、浜松から島田、そして大井川へ…。

舞台のクリエイマックスは、浜松から島田、そして大井川へ…。

舞台のクリエイマックスは、浜松から島田、そして大井川へ…。

舞台のクリエイマックスは、浜松から島田、そして大井川へ…。

舞台のクリエイマックスは、浜松から島田、そして大井川へ…。